

令和7年春の外国人叙勲における台湾の受章者

4月29日、日本政府は令和7年春の外国人叙勲受章者を発表しました。その中で、下記のとおり、台湾から2名の方が日台間の友好関係の増進に顕著な功績があったとして受章されました。

日本台湾交流協会としても日台関係の発展のために長年にわたり献身的なご尽力をされてこられた受章者のご貢献に衷心の敬意と謝意を表します。

張昌彦氏

勲章：旭日双光章

主要経歴：日本映画評論家・翻訳家

功績概要：台湾における日本文化の紹介及び日本・台湾間の友好親善に寄与

受章者のことば

片山代表、ならびにご来賓の皆様、こんにちは。私は張昌彦と申します。今年84歳になります。今日は当時映画界で共に働いた仲間たちや教え子たち、そして家族がこの場にお越しくださり、大変うれしく思います。ありがとうございます。

本日は、私にとって非常に名誉ある日です。代表から旭日双光章を賜り、その光栄に胸がいっぱいです。私の映画人生において、今日ここにいる皆様は皆、欠くことのできない存在です。皆様と人生のさまざまな場面をともにしてこられたからこそ、今この場に立っていただけるのだと思います。

私は人生を通じて日本と深い縁をいただきました。黒澤明監督の「赤ひげ」が、私が映画の世界へ踏み出すきっかけとなりました。大学卒業後、私は日本・早稲田大学文学研究科に進学し、視野を大きく広げる機会を得ました。多くの映画を観、今も映画界で活躍している多くの友人と出会い、映画の「養分」を分けていただきました。

1979年に台湾へ戻った後は、評論執筆に加えて映画脚本の教育にも携わってきました。中国文化大学、輔仁大学、世新大学、台湾芸術大学などで教壇に立ちましたが、今日も教え子たちが参列

してくれているようで嬉しい限りです。教職生活では黒澤明監督に加えて、小津安二郎、成瀬巳喜男、木下恵介など日本の著名な監督の作品を授業に取り入れ、多くの学生に紹介してきました。60歳まで専任講師として教え、その後退職しました。

また、現在の「国家電影及視聽文化センター」とも深い縁があります。私が台湾に戻った当初「電影図書館」と呼ばれていたこの施設は、設立して間もなく、私はそこで多くの日本映画を「鑑賞し」「紹介し」、台湾での上映に向けて推薦し、国際映画祭を企画する機会を得ていました。

台湾で日本映画の上映が禁止されていた時代から解禁に至るまで、その間の台湾と日本の交流において、私は幸運にもその現場に身を置くことができました。

1989年、偶然にも「台聯」映画会社の方と知り合い、台湾語映画フィルムの現存を知った私は、すぐに電影図書館に報告しました。それを起点に台湾語映画の整理作業に着手し、評論家の李幼新さんとともに同年の金馬国際映画祭で台湾語映画の特集を企画しました。その後も、台湾語映画の整理・普及活動を通じて、日本映画との関係について研究し、日本側に台湾独自の映画文化を紹介しました。

その後、電影図書館が電影資料館となり、私は黄建業氏や李道明氏らとともに研究プロジェクトを推進しました。

さらに、2003年の台北映画祭で京都を取り上げたり、文化・映画関係の仲間たちと共に日本の

山形国際ドキュメンタリー映画祭に学びに行き、これが契機となって台湾国際ドキュメンタリー映画双年展が誕生しました。

私が台湾と日本の文化交流に貢献できているとすれば、まさにこれら一つ一つの小さな仕事に現れていると思います。

このたび、日本政府からこのような荣誉ある賞を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。これまで私を支えてくださった皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。ご列席の皆様に、心から感謝申し上げ、結びのごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。



邱美富氏

勲章：瑞宝双光章

主要経歴：元（公財）日本台湾交流協会高雄事務所現地職員

功績概要：（公財）日本台湾交流協会在外事務所活動に寄与

受章者のことば

奥所長、並びにご来賓の皆さま、こんばんは。

この度、日本政府よりこの上ない名誉を賜り、またこのように盛大な叙勲式を催していただき、心より感謝申し上げます。

また、ここにお集まりくださった友人の皆さまと共に、この荣誉を共に見届けることができ大変嬉しく思います。

特に、奥所長をはじめ、関係者の皆さまが式典のために多大なご尽力とお時間を割いてくださったことに、改めて厚く御礼申し上げます。

私は1980年4月に交流協会に入り、2024年11月30日に退職いたしました。この44年7か月という年月は、私の人生のほぼ半分にあたります。日本台湾交流協会は、単なる職場であるだけでなく、私の人生における大きな道しるべでもありました。

在職中は、自らの仕事への熱意や真面目な姿勢に加え、歴代上司の信頼や寛容、先輩方の懇切丁寧な指導、そして同僚との緊密な協力と助け合いに支えられてきました。そうした一つひとつが私の心に深く刻まれ、安定して継続的な業務の中で成長する力となりました。

また、在職中に、私は昭和・平成・令和という三つの時代を経験し、日台間の交流が困難な状況から、より緊密で友好的な関係へと発展していく様子を目の当たりにしました。これはひとえに歴代所長や幹部の皆さまのご尽力の賜物であり、その成果が今日に結実しているものと存じます。

いまこの時に、叙勲という荣誉を頂戴し、感謝の思いは言葉に尽くせません。ただただ「感謝」の一言に尽きます。

最後に、日台関係および日台間の交流が今後ますます緊密で友好的に発展していくことを心より祈念するとともに、皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

